

野山の花

— 身近な山野草の食効・薬効 —

城西大学薬学部 白瀧 義明 (SHIRATAKI Yoshiaki)

シャクヤク *Paeonia lactiflora* Pall.
(=*P. lactiflora* Pall. var. *trichocarpa* (Bunge) Stearn)
(ボタン科 Paeoniaceae)

連絡先：城西大学薬学部生薬学教室
shiratak@josai.ac.jp

風薫る5月、山裾の農家の庭などでシャクヤク（芍薬）の立派な花を見かけます。シャクヤクは高さ約60cmの多年草で、5月中旬、大形の白～紅色のボタン（牡丹）に似た花を咲かせます。本植物は中国東北部、朝鮮半島原産で、古く日本に渡来し、庭園、公園等に広く植えられ、園芸用の品種が数多くあります。茎は直立して数本そう生し、葉は互生、下部のものは2回3出複葉で、小葉は皮針形または円形で、上部の葉は次第に単葉となり、葉脈、葉柄、および茎は赤味を帯び、根はやや数多く、紡錘状で肥厚しています。よく似た花をつけるボタンは、木本で「百花の王：花

王」とよばれるに対し、シャクヤクは草本で「花の宰相：花相」とよばれます。シャクヤクはよくボタンの台木として使用されることから鑑賞用のボタンの根は薬用のボタンピ（牡丹皮）としては不向きです。乾燥した根は、生薬名をシャクヤク（芍薬, *Paeoniae Radix*）といい、収れん、緩和、鎮痙、鎮痛作用があることから筋肉のこりの緩和、腹痛、身体疼痛、腹満、下痢、化膿性疾患等改善のため、葛根湯、芍薬甘草湯、当归芍薬散、加味逍遥散をはじめ、多くの漢方処方に配合されます。根には変形モノテルペン配糖体の paeoniflorin, oxypaeoniflorin,



写真1 シャクヤク（花）A



写真2 シャクヤク（花）B



写真3 シャクヤク（花）C



写真4 ヤマシャクヤク（花）

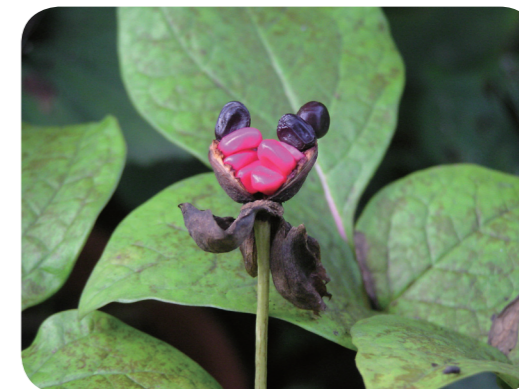


写真5 ヤマシャクヤク（果実）

benzoylpaeoniflorin, albiflorin, paenimetabolin I, paeoniflorigenone, 安息香酸, ガロタンニン類（タンニンの1種で加水分解により生成するポリフェノールカルボン酸が没食子酸 (gallic acid) のみのタンニンの総称）が含まれます。生薬としては、調整法の違いにより「赤芍」と「白芍」があり、一時期、赤い花の咲くのを「赤芍」、白い花の咲くのを「白芍」としたり、野生品を「赤芍」、栽培品を「白芍」としたりしましたが、現在、日本では、外皮をつけたまま乾燥させたものを「赤芍」、外皮を取り去って乾燥させたものを「白芍」としています。同属植物としては、ボタン *P. suffruticosa* やヤマシャクヤク *P. japonica* (環境省のレッドリストの準絶滅危惧 (NT) に指定) などがあります。美女の形容として「立てば芍薬、坐れば牡丹、歩く姿は百合の花」という都々逸がありますが、これは、植物の形容からの表現で、シャクヤクはすらりと伸びた茎の先端に花を咲かせ、ボタンは枝分かれした横向きの枝に花をつけ、まるで座っているかのように見えます。また、ユリはしなやかな茎の先にややうつむき加減に花をつけ、花が風をうけて



写真6 ボタン（花）



写真7 生薬：シャクヤク（芍薬）



写真8 生薬：ボタンピ（牡丹皮）

